

おか なん しょう がっ こう
岡南小学校

所在地・・・岡山県岡山市北区岡山南町二丁目4番5号

面積・・・約900㎡

実施主体・・・岡山市立岡南小学校

問合せ先・・・【住所】岡山市北区岡山南町二丁目4番5号
【TEL】086-225-3526

岡南小学校(校内ビオトープ)

整備の概要

整備実施期間・・・平成15年度(2003年度)～

①「ビオトープの整備」に向けた整備手法

Step1:関係者による話し合いの実施

「ビオトープ整備準備委員会」「ビオトープ整備実行委員会」を開き、具体的な計画について話し合った。九州環境管理協会の指導の下、岡南学区の環境調査を行った。

Step2:保護者、地域住民を対象にした説明会の実施

保護者、地域住民を対象に「岡南小ビオトープ計画説明会」を開き、今後の実施計画の説明、整備作業への協力依頼などを行った。

Step3:市・市民・企業の協働によるビオトープの整備

既存設備の撤去、池の掘削、防護シート張り、底土入れ、井戸掘り、貯水槽整備、橋の整備、小径や周辺整備、全体整備等の作業は、地域住民・保護者・児童・教職員など参加者の協力により実施した。

② 整備時の協働者との関わり ⇒小学校の児童、教職員、保護者、地域住民、企業(コカコーラウエストジャパン社)

ビオトープの造成は岡南小の児童、教職員、保護者、地域住民の手によった。また、資材購入費用の支援、重機リース等の面では、コカコーラウエストジャパン社からの支援があった。

③ 整備時の留意点

* 水の循環の問題があったが、学校の横を流れる西川から、ポンプを使って水を循環させることで、池の水が濁ることなく、生き物の観察ができるようになっている。



防護シート張りの様子



水路の防護シート土かけの様子

事業効果

●池はトンボやヤゴが棲めるまでの環境となった。

●森のせせらぎの流水部分には、砂があるため、シジミやカワニナが生息し、メダカ、フナ、オイカワ、カワムツ、ムギツク、ヨシノボリ、タナゴなどの淡水魚も増加、オタマジャクシやカエルの姿も見られる。

●果樹や木の実・小魚を求めていろいろな鳥たちもよく来ている。一度渡り鳥のカモが飛来したこともある。



メダカ



カワムツ



カワニナ



ヨシノボリ

対象地の概要・・・多様な動植物が生息・育成する空間を造るため、地域・保護者・学校が一体となって作業を進めたビオトープであり、木材チップの小径、まんぼう池、くらげ池、注水口、ふれあいの森、であいの橋、命の原っぱ、森のせせらぎなどのコーナーがある。子どもたちの学習の場、憩いの場となっている。

事業への取組みのきっかけ

岡南小学校の近くに旭川や西川(枝川)が流れているが、コンクリート護岸の近寄りづらい危険な川である。子ども達が自然にふれる観察池がなく、子どもたちが安心して親しめる自然を身近に感じて貰いたいとの思いがアクションプランとして具体化した。実現に向けて資金や保護者・地域の理解と協力等についての問題を整理している時、岡山市教育委員会からコカコーラウエストジャパン社の支援の話が本校に届いたため、ビオトープの整備が進んだ。

維持管理の概要

④「ビオトープの整備」に向けた維持管理内容

地元の管理団体(ビオトープを育む会)の協力で、ビオトープ教室を年2回開き、ビオトープの学習とともに整備作業を行っている。また、ビオトープを育む会が定期的に、草刈や寒肥の施肥作業等を行っている。

⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒地元の管理団体(ビオトープを育む会)

地元の管理団体(ビオトープを育む会)が主体で、年に2回ビオトープ教室を開催している。

⑥ 維持管理時の留意点

* 生態系を脅かすカダヤシやジャンボタニシ等の外来種がビオトープに入り込んだことがあるが、駆除が大変だったため、留意が必要である。



ビオトープの春に備えての清掃作業の様子



カダヤシ(外来種)



ジャンボタニシ(外来種)

備考

生物多様性の保全に配慮したその他の取組み

本小学校では、生物多様性の保全に向けて、木材チップの小径、まんぼう池、くらげ池、注水口、ふれあいの森、であいの橋、命の原っぱ、森のせせらぎなどの整備も行っている。また、校内のビオトープは小学校に隣接して流れる西川からポンプで取水し、中にある池まで水の流れ(小川)を作っている。

現在の課題

地元の管理団体(ビオトープを育む会)のメンバーが高齢者が多く、整備作業等を進める上で課題となっている。また、維持管理上の予算の問題も課題となっている。

今後の展望

多くの生物が生息するすばらしい学習の場・憩いの場となっているが、カワニナの生息も確認できているので、さらにホタルの棲むビオトープとなればと思っている。